

筑波大学附属図書館 年報 2013 年度



University of Tsukuba Library

Annual Report

2013



目次

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY
ANNUAL REPORT 2013

13

C O N T E N T S



1	1 館長挨拶
2	2 トレンド ディスカバリサービスの仕組み
4	3 フォーカス (2013 年度の特徴的な活動・事業) 1) ソーシャルメディア 2) 中央図書館開館時間の延長 (試行) 3) 文庫・新書・電子リソースの拡充 4) 図書館システム更新 5) 知の開拓者たち ― 筑波大学開学 40+101 周年記念特別展 6) ラーニング・アドバイザーの活動
11	4 資料紹介 貴重なアニメーションを DVD で ― 「世界アニメーション映画史 第三期」
12	5 職員の活動 1) 出張報告 (ICOLC、ETD2013、島根大学、釜山大学校) 2) 論文発表・研修における講師等 3) 職員研修会
16	6 トピックス サービス・活動・見学・来訪者、オリエンテーション・講習会、 研修・シンポジウム、会議、その他
18	7 メディアにみる附属図書館 1) 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事 2) 図書館の刊行物
19	8 所蔵・公開資料の記録 出版・放映・Web 上に掲載された所蔵・公開資料
20	9 附属図書館ボランティアの活動
21	10 組織図・歴代館長
22	11 統 計

館長挨拶

中央図書館 エントランス



筑波大学附属図書館長

中山 伸一

開かれた大学図書館にむけて

「筑波大学附属図書館年報2013」をお届けします。

ご挨拶にかえて、2013年度の附属図書館におけるいくつかのトピックスをご紹介します。

まず中央図書館の開館時間延長の取り組みについて本年度の状況を述べます。昨年度は学期中の平日の開館時刻を8時半、閉館時刻を24時とし、土日祝日の閉館時刻を20時とする試行を行いました。本年度はその試行を継続するとともに、休業期間における図書館利用の要望を受け、休館していた休業期間の土日祝日の一部を開館して開館日数を19日間増やし、休業期間の平日の一部についても閉館時刻を17時から20時に延長しました。その結果、昨年度に比べて約4万人の入館者の増加がありました。その実績を踏まえ、さらに利用者アンケートやインタビュー調査を行った結果をもとに、2014年度からは学期中の開館時間延長については正式運用とするとともに、年末年始および本学が定める休業日を除いた休業期間の土日祝日を開館する試行を行います。

中央図書館のラーニング・スクエア(ラーニングコモンズ)の一部を年度末にリニューアルし、文庫・新書を新たに配置すると同時にグループ学習に適した可動式のテーブルと椅子を設置しました。昨年度から教員の皆様の協力を得て始めたライティング支援連続セミナーも、本年度はさらに充実して春学期と秋学期にそれぞれ7回開催し、多数の参加者がありました。ライティング支援については、学習サポートデスクでもラーニング・アドバイザーが個別に対応しております。学習資料充実のための、「授業関連必読図書」も次第に定着してきましたが、引き続き教員の方々の積極的な指定をお願いします。

中央図書館は、大学内に於ける立地の良さから、様々な情報発信の拠点として利用していただいております。エントランスホールでは、つくば院生ネットワーク主催の「プレゼンひろば」に加え、哲学・思想専攻の教員の皆様が行っている哲学カフェが始まり、さらに鹿島アントラーズ展などが開催されました。カウンター前のスペースは多くの部局等からパネル展示等の要望があり、大学からの情報発信の場となっております。恒例の附属図書館特別展は、開学40周年の節目ということで、「知の開拓者(パイオニア)たちー筑波大学開学 40+101周年記念特別展」と題して行い、盛況でした。

医学図書館は耐震改修工事のため9月から閉館し、附属病院内

の仮設図書室でサービスを始めました。十分なスペースが確保できず、資料の一部については利用できない状況でご不便をおかけしております。

非来館型サービスの中心となる電子ジャーナルや電子ブック、機関リポジトリ(つくばリポジトリ)については引き続きその提供と新たなコンテンツの充実に努めております。特に電子ジャーナルのバックファイルについて、本年度は研究大学強化促進事業経費の配分等を受け、Nature姉妹誌3誌、Elsevier社ScienceDirectの23分野、Web of Scienceの1955年から1974年まで等を購入しました。多くの方々にご利用いただければと思います。また、年度末には電子図書館システムを更新し、ディスカバリサービス(Tulips Search)を提供しております。

学内他部署との関係では、昨年構築に協力したTRIOSの入力面での支援を行いました。また、本年度は博士学位論文のインターネットによる公表という大きな変革があり、その背景や状況に関する説明会を開催しました。教員や大学院生の皆様のご理解の一助になったものと思います。今後も、ご要望があれば対応いたします。

さて、筑波大学は国立大学図書館協会の理事館であり、国公立大学図書館協力委員会および同委員会と国立情報学研究所(NII)との連携・協力推進会議のメンバーです。最後に、これら学外に関連する状況も少しご紹介しておきます。

連携・協力推進会議のもとに設置された大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)は、電子ジャーナルの契約条件の交渉等で一定の成果をあげております。当初、事務局の専任職員は派遣元大学が負担しておりましたが、今年度から会費を徴収する会員制の組織に移行しました。SCOAP³は高エネルギー物理学分野の論文のオープンアクセス化を目指すもので、雑誌の購読料に相当する金額を投稿料に振り替える形で、誰もが自由に論文を読めるようになります。筑波大学は、財務部の積極的な支援もあり、振り替えに同意しました。

附属図書館は、以上のように皆様から見える所、見えない所で、その利用や来館の敷居をできるだけ下げる工夫をして、開かれた大学図書館を目指しております。多くの方々の更なるご利用と、附属図書館のこれらの活動に対するご理解・ご支援を、この場を借りてお願い申し上げます。

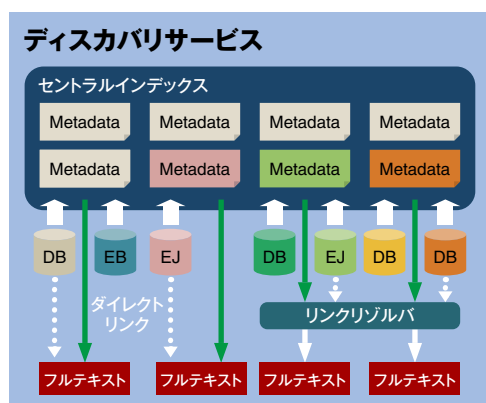
ディスカバリサービスの仕組み

1.はじめに

2014年3月の電子図書館システムの更新に伴い、ディスカバリサービス(製品名: ProQuest社 Summon、サービス名: Tulips Search)を導入した。ディスカバリサービスは、文献の発見を支援するサービスという意味で、図書館が提供するOPAC(オンライン蔵書目録)、電子ジャーナル、データベース、機関リポジトリなど、様々な情報資源を同一のインターフェースで検索できるサービスのことをさす。

文献を網羅的にサーベイすることは研究や学習において極めて重要であるが、紙媒体の文献や電子媒体の文献が混在する現代においては、どこにどのような文献があるのかを知るのには容易ではない。そこで、Tulips Search というひとつのインターフェースで、あらゆる資料の本文(PDFファイル)にアクセスしようというのがその狙いである。結果として、利用者は電子ジャーナルやデータベースを区別することなく、Googleを使うような感覚で文献を探すことができる。方法は単純で、複数の電子ジャーナルやデータベースのメタデータを収集し、メタデータに本文の情報があるものについては本文のPDFファイルへのリンクを作成する(図1)。実は、前システムでもディスカバリサービスは導入されていたが、検索の範囲が限定的であること、リンクされるものが少なかったことなど、事実上、今回が本当の意味でディスカバリサービスを導入したといえる。

図1 ディスカバリサービスの概念図



2.ディスカバリサービスの仕組み

実際にTulips Searchを使ってみると、検索できるはずの文献が見つからない、本文があるはずなのにリンクがでてこない、同じ文献が複数回表示されてしまうなど、不可解な動作をしているように見えることがある。なぜこのようなことが起こるのかを「図書館の探検的学習を目的とした電子教材の開発」という論文

を例にとって、Summonの仕組みを踏まえながら説明しよう。Tulips Searchで検索すると、図2のように4件も同一文献が表示される。これはディスカバリサービスの仕組みに起因する。

図2 同一文献の重複表示



ディスカバリサービスはネットワークを介してサービスを利用するだけのクラウド型システムである。筑波大学が契約している電子ジャーナルリストやサービス対象に含めたいデータベースをProQuest社に伝え、Tulips Search用の設定としてメタデータをハーベスト(定期的にプログラムが収集すること)するようSummonに指定する。以下はTulips Searchがハーベストしている日本語文献のデータベースである。

- ① 筑波大学附属図書館所蔵の図書(OPAC)
- ② 筑波大学附属図書館所蔵の雑誌(OPAC)
- ③ つくばリポジトリ
- ④ 筑波大学が契約している電子ジャーナル
- ⑤ 国立国会図書館の雑誌記事索引
- ⑥ 国立情報学研究所のCiNiiのうち、学協会刊行物
- ⑦ 国立情報学研究所の機関リポジトリデータベース JAIRO
- ⑧ 科学技術振興機構の電子ジャーナルプラットフォーム J-STAGE

1から3のOPACデータおよびつくばリポジトリは、筑波大学ローカルのデータなので、Summonからみれば、特別にハーベストする必要があり、データ形式の変換が必要となる。本稿を執筆している2014年3月現在、一部のOPACデータが検索できないのは、ローカルデータとSummonのデータ項目のマッピングに不整合があるためである。

次に、同じ文献が複数回表示されてしまう件であるが、これは書誌同定が原理的に難しいこと、データベースの収録範囲が異なること、データ提供に制約があることが複合的に絡み合っているために起こる。上の5から8は論文を含む雑誌記事を収録したデー



データベースであるという点は共通している。5は国立国会図書館が学術雑誌を中心として1948年以降の記事を索引付けしたもので、網羅性が高い。6はCiNiiのデータのうち、学協会刊行物に限定されたものである。国立情報学研究所はディスカバリサービスからの利用に制限を加えており、ハーベスト対象を限定するとともに、ディスカバリサービス経由でアクセスする場合は学内のみとし、学外からアクセスする場合は認証を必要とする。7は国立情報学研究所が提供している国内の機関リポジトリデータであるが、これも6と同様、アクセス制限がある。8は科学技術振興機構の電子ジャーナルプラットフォームを利用している学協会の雑誌記事データである。

表1はSummonにおけるデータベースの制約の違いをまとめたものである。国立国会図書館の雑誌記事索引は網羅性という点で優れているが、PDFファイルへのリンクが少ない。CiNiiはPDFファイルへのリンクは多いが、日本の雑誌記事を全て網羅しているわけではない。JAIROは国内の機関リポジトリ全体のデータベースでつくばリポジトリを含んでいるが、CiNii同様、ディスカバリサービス上は学内限定であるため、つくばリポジトリもハーベストせざるをえない。実はCiNiiを直接利用すれば、雑誌記事索引もJAIROも含んではいけるのだが、前述したとおり、ディスカバリサービスへのデータ提供は制限されている。J-STAGEはPDFファイルへのリンクは多いが、学協会全てがJ-STAGEを利用しているわけではなく、アクセス制限のある論文誌も多い。

表1 Summonにおける制約

所属	網羅性	PDF リンク	学外 アクセス
つくばリポジトリ	×	○	○
国立国会図書館の雑誌記事索引	○	×	○
国立情報学研究所のCiNii(学協会刊行物)	○	○	△
国立情報学研究所のJAIRO	○	○	×
科学技術振興機構のJ-STAGE	△	△	○

改めて図2を見てみよう。検索結果は、上から順に、J-STAGEにヒットしたもの、国立国会図書館の雑誌記事索引にヒットしたもの、つくばリポジトリにヒットしたもの、JAIROにヒットしたものである。このように論理的に同一の文献は、理想をいえば、書誌を統合し、PDFファイルにリンクされているものだけを表示すればよいが、図2に見られるとおり、データベースごとに書誌記述が少しずつ異なるため、統合は難しい。書誌の同定に関する研究は昔からあるが、完全な書誌同定アルゴリズムはいまだに確立されていない。とはいうものの、三つ目と四つ目は両方とも出所がJAIROなので、この2つぐらいは書誌統合できそうであるが、グローバルインデックスとローカルインデックスを統合しないというSummonの運用ルールにより統合されていない。

PDFファイルへのリンクにも差がある。図2の例では、たま

たま雑誌記事索引からもPDFファイルに到達できているが、雑誌記事索引はPDFファイルにリンクされていない場合が多く、下手に書誌を統合すると、PDFファイルは存在するにも関わらず、到達できない可能性がある。つまり、現時点では、網羅性、PDFファイルへのリンクの有無、外部アクセスという3つがトレードオフの関係にあり、書誌の重複を減らそうとしてハーベスト対象を少なくすると、実際は到達可能なのに文献を発見できなくなる可能性があり、ディスカバリサービスの意義が失われる。そのため、現在は網羅性を重視した設定になっている。

3. ディスカバリサービスの意義

ここまでを読むとディスカバリサービスは必要ないのではないと思われるかもしれない。実際、専門性が高く、研究テーマがはっきりしている場合は、読むべき電子ジャーナルや使うべきデータベースが決まっていることが多く、それらを直接利用したほうが便利の場合が多い。しかし、文献探索はそういう場合だけではない。どのように文献を探すかは我々が想像する以上に多様である。そういう中で「文献を発見する」ことに重点を置いたディスカバリサービスが役に立つ局面が必ずあるはずである。今はまだ性能が不十分なので、数あるツールの一つだと割り切り、うまく使っていただきたい。使いこなすコツは、細かい機能を組み合わせて使うことである。たとえば、並び順を「適合度順」から「日付順」に並び替えてみたり、左側の「絞り込み」や「フォーマット」を変えてみたりするなど、徐々に自分の望む検索結果を作っていくイメージである。また、この文献はよさそうと思ったら、+のついたフォルダアイコンをクリックして一時保存するとよい。ただし、ブラウザを終了したら消えてしまうので、電子メールで送るか、「エクスポート」からRefWorksに保存するなどの処理が必要である。

4. おわりに

今後、Tulips SearchがGoogle並みに使いやすくなるかどうかは正直わからない。ディスカバリサービスの使い勝手が悪い原因は、比較的解決が容易な技術的要因、原理的に解決困難な技術的要因、データ提供者の経営方針に依存せざるを得ないこと、附属図書館のサービス体制といった複合的なものである。個人的には、これら要因の切り分けが行われず、今何が主たる要因なのか利用者に周知されていないことが大きな問題であると考え。サービスがよくなるかどうかは利用者がどのくらい要求を出すかにもかかっている。ディスカバリサービスは世界的にまだ若いツールなので、温かい目で見守りつつ、しかし、気づいたことがあったら遠慮なく指摘していただければと思う。

(図書館情報メディア系准教授 宇陀則彦)

1. ソーシャルメディア

1.はじめに

「ソーシャルメディア」の定義には様々ありますが、一般的には情報通信技術を用いて誰もが参加できる形で、社会的な相互作用を通じて広がっていくメディアと知られています。電子掲示板やブログ、ソーシャルブックマークや動画共有サイト、ソーシャルネットワーキング(SNS)などがソーシャルメディアとして分類されます。

筑波大学附属図書館(以下「附属図書館」)では、早くから貴重図書画像や蔵書検索システムなどのいわゆる「電子図書館」機能をインターネット上で公開するなど、今日のインターネット隆盛を予見した先進的な取り組みを行ってきました。一方で、世界的なソーシャルメディアの普及に際して、利用者へのよりリッチなサービス提供を目指してその機能の取り込みを模索し続けてきました。

本稿ではその取り組みを紹介し、今後の展望を示したいと考えます。

2. ブログ・親しみやすさと双方向メディアへの模索

ブログとは「Weblog」に由来し、気になったWebページのURLと寸評をメモしたサイト(WebのLog)が起源と言われています。今日では、転じて個人の日記や特定のトピックなどを掲載した比較的頻繁に追加・更新されるWebサイト全般、ないしそのプラットフォーム全般を指すことが一般的です。

附属図書館では例年テーマを設定して貴重資料や関連資料を展示する特別展(企画展)を行っています。また同時に電子展示として、図録や展示資料の電子データをWebページで公開していましたが、広報力の強化、準備期間や展示期間中の情報発信や双方向性を求めて、2006(平成18)年の特別展から「展示ブログ」(<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/blog/>)と題して、準備風景などの展示の舞台裏や観覧者からの質問への回答、展示テーマの関連情報や補足を掲載するブログを開設しました。以降、毎年特別展の期間前後を中心に活用が続けられています。

展示ブログは、その名の通り特別展等の展示に特化した内容ですが、一方で附属図書館Webページにおける固定的・事務的な情報発信に対して、より利用者にとって親しみやすく、日常的で更新頻度の高い情報発信を目指して、恒常的なコンテンツとして開設されたのが、2009(平成21)年4月にスタートした「週5図書館生活どうですか?」ブログ(<http://www.tulips.ts>

[ukuba.ac.jp/w5lib/](http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/w5lib/))です。イベント情報などのトピックや日常の出来事など、従来の「公式」Webページには掲載しにくい情報を積極的に掲載して更新頻度を高めることで、附属図書館に興味のなかった利用者へのプロモーションを試みました。このブログは附属図書館プロモーションビデオ(PV)と合わせて開設されたもので、新しい試みであったPVやReadingボタンといった学生向けコンテンツとの相乗効果で、開始以来人気を博しています。

3. YouTube - 動きのある「電子展示」を目指して

近年、高速なネットワーク環境や、高解像度の動画撮影が可能な機器が普及するのに合わせて、YouTubeをはじめとする動画共有サイトが一般的になってきました。

附属図書館の特別展では、これまでも展示資料の高精細画像をWebで公開するなどの電子展示を行っていましたが、それに止まらず、より動きのあるコンテンツとして特別展期間中に開催されている特別展講演会や資料説明の動画を公開してみようという企画が2009(平成21)年度特別展で生まれました。附属図書館のサーバーからの動画配信も検討されましたが、ネットワークや配信環境、また知名度の面からYouTubeを使用することとしました(<http://www.youtube.com/user/UnivTsukubaLibrary>)。

大規模動画共有サイトのスケールメリットを生かして、他のユーザーが投稿した動画に対しても関連動画として附属図書館の動画がレコメンドされるなど、従来の附属図書館Webサイトでは不可能だった、広がりのある展開が期待されます。

4. Twitter - リアルタイムで生の声を

Twitterは140字以内の短文を投稿するマイクロブログサービスで、通常のブログに比べてコミュニケーション性・リアルタイム性の強いものとなっています。

附属図書館では2010(平成22)年度の特別展において、さらなる広報力強化を求めてTwitterを試用しました(https://twitter.com/tulips_tenji)。学園祭期間中に行われた特別講演会では、図書館内で行われていた他イベントのアカウントとの連携も行われ、ツールの特性を生かした広報が展開されました。

一方、2011(平成23)年に発生した東日本大震災では、停電・計画停電によるサーバー停止に伴い附属図書館からの情報発信が困難になるとの見通しから、震災直後でも有効な情報伝達手段として機能したTwitterの活用が決定し、附属図書館公式アカウントの運用を開始しました(https://twitter.com/tsukubauniv_lib)。附属図書館はもとより大学や周辺の被災



状況、復旧状況、大学公式情報の配信などを通じて多数のフォロワーを集め、有効な情報発信を行うことができました。震災後の状況が一段落した後は、附属図書館の広報ツールとして活用が続けられていますが、学生の活動状況や生の声を知るツールとしても有効であることが判明し、学生生活に役立つアカウントとしての認知も広まってきているようです。

5. Facebook - 魅力を伝えるつながりを求めて

実名登録によるソーシャルネットワーキングサービス(SNS)として急速に普及してきたFacebookは、組織の広報ツールとしても活用され、筑波大学でも2012(平成24)年に公式Facebookが開設されました。大学図書館でも活用事例が増えてきた状況を踏まえ、2013(平成25)年、開学40周年を期して附属図書館も公式Facebookを開設しました(<https://www.facebook.com/tsukubauniv.lib>)。通常のWebページでは掲載しにくい諸活動や附属図書館の舞台裏、その他、親しみを持ってもらえる内容を掲載することをコンセプトに、より魅力的な情報発信と、利用者とのコミュニケーションを目指して運用されています。

2014年3月時点で560を超える「いいね!」と1投稿あたり概ね300以上(最高1,880)の閲覧数を獲得しており、浸透が窺えます。

6. その他ソーシャルメディア

以上に紹介してきたもののほか、中央図書館で活動しているラーニング・アドバイザーが学生にお薦めしたい本のレビューを作成して掲載しているWeb本棚サービス「ブックログ」(筑波大学附属図書館ラーニング・スクエア☆学習支援の本棚 <http://booklog.jp/users/tulips>)や、東日本大震災における被災写真を掲載し公開した画像共有サイトflickr(https://www.flickr.com/photos/univtsukuba_lib/)、またライティング支援連続セミナーや講演会のインターネット中継を試行した動画中継・共有サービスUSTREAMなどのソーシャルメディアを附属図書館のサービスの一環として活用しています。

7. ソーシャルメディアの利活用

各ソーシャルメディアは、全てWeb上のサービスであり、簡単な登録だけで使用することができるため、自前でサービスを運用するのに比べて、遥かに簡便かつ低コストで使用することができます。また検索エンジン等を通じてのプレゼンスも高く、効果的な広報が期待できます。一方で、外部サービスの利用となるため、セキュリティやサービス存続の保証、無料アカウントに対する

機能制限など、サービス提供側に起因する問題、またいわゆる「炎上」やアカウント乗っ取りなど運用側で生じる問題が存在します。

これらのメリットとデメリットを十分に勘案した上での利活用が求められますが、これまでの図書館サービスの中では不可能だった類のサービスがほとんどで、現状ではメリットが大きく優れていると考えられます。

8. ソーシャルメディアの運用

ソーシャルメディアは比較的新しいサービスで、附属図書館職員の中でも実際に触れたことのある人が限られることから、運用開始のきっかけや継続的な運用体制の確立が課題となっています。

前述のように、特別展の時限的・試行的な使用を経て本格的・継続的なサービスを開始するというステップを経たツールもあり、運用実験の機会として特別展の果たす役割は大きいと言えます。

また継続的かつ充実した運用のために、2013(平成25)年度には広報WGを立ち上げ、その中にTwitter/Facebookチームを組織し、有志職員を募っています。特に継続的な情報発信が必要なツールについて、組織横断的にチームを編成して一定の更新頻度や幅広い情報発信を行うことを目指していますが、今後はチームでのノウハウの蓄積と周辺への伝播を図り、将来的には特定のチームに依存しない職員全員による情報発信を目指しつつ、ソーシャルメディアを有効に活用していきたいと考えています。

(企画渉外担当/広報WG(Twitter/Facebookチーム) 嶋田 晋)



2.中央図書館開館時間の延長(試行)

1.はじめに

「附属図書館年報2012」でも報告したとおり、附属図書館では、中央図書館の開館時間延長の試行を2012年度から実施しているところですが、前年度の好調な実績を踏まえて、2013年度も授業期間の開館時間延長の試行を継続するとともに、休業期間の一部においても開館延長を拡張して実施しました。

2.2013年度の試行結果

授業期間は前年度同様、平日朝(9:00→8:30)・夜間(22:00→24:00)・土日祝日夜間(18:00→20:00)の開館延長を、年度を通じて実施したほか、一部の休業期間(9月、年末年始、2月)においても、平日夜間(17:00→20:00)、土日祝日(休館→10:00-18:00開館)の開館延長の試行を新たに実施しました。

これらの試行の結果、前年度に比べて年間開館時間は500時間拡張し、入館者数も約4万人増加しました。また、延長した時間帯の利用状況は、授業期間の平日夜間で年間平均217名、土日祝日夜間で平均293名の利用があり、いずれも前年度実績を上回りました。

しかしながら、休業期間の延長については、前年度の休業期間と比較しても、入館者数の顕著な増加は見られず、2学期制への移行の影響や休業期間の延長試行の広報・周知の徹底といった点も含めて、さらに利用者のニーズの把握や利用動向の分析が課題として残りました。

3.試行評価のためのアンケート調査

延長試行の評価のために、2013年12月9日～27日の間、中央図書館来館者を対象として「開館時間延長(試行)に関するアンケート調査」を実施しました。

集計結果は、図書館ホームページでも公開していますが、概略は次のとおりです。

- 回答者数：159名
- 回答者の80%が、延長した時間帯に図書館を利用
- 利用頻度の上位：1)授業期間の土日祝日(月2～3回)、2)授業期間の平日深夜(週2～3回)、3)休業期間の土日祝日(月2～3回)
- 延長時間帯の利用目的の上位：1)自学自習のための学習スペース、2)PC(全学計算機・図書館PC)、3)図書館資料の館内閲覧
- 授業期間の開館時間延長の評価：78%が「適当」、14%が「さらに延長が必要」
- 休業期間の開館時間延長の評価：70%が「適当」、22%が「さ

らに延長が必要」

- 延長時間帯のサービスの評価：76%が「適当」、16%が「さらに拡充が必要」、拡充の要望として、研究個室の利用時間の延長と貸出時間の延長が多数
- 平日深夜の安全面でとくに対応の強化が必要な点：1)キャンパス内の外灯の増加、2)図書館内の巡回、3)学外者の入館制限
- その他の意見：開館時間延長の継続(多数あり)

4.利用者インタビュー

前述のアンケート回答者の中からインタビュー協力者を選出し、大学院生4名、学群生3名を対象に、開館時間延長の評価を中心とした利用者インタビューを2014年1月15日に実施しました。

概ねアンケートの集計結果を裏付ける評価を得ることができましたが、土日祝日・休業期間の開館時間のさらなる延長や延長時間帯のサービス拡充について意見が寄せられたほか、延長試行の実施を知らない利用者もいたとの指摘もあり、広報や周知の工夫が必要との認識を深めることができました。

5.正式運用に向けて

試行を通じて中央図書館の利用実績が向上し、利用者からの評価も高く、学生の学習時間の確保・増加を促進するために開館時間の延長が有効であることを示すことができました。2014年度においては、下表のとおり、授業期間の開館時間延長の正式運用を開始するとともに、休業期間についても開館延長を拡張して試行を継続します。

今後はホームページ等の様々な広報媒体を活用し、開館時間延長の実施について、利用者への一層の周知・利用促進を図るとともに、休業期間の開館時間延長については、2014年度の試行を踏まえて今後の方針を確定します。

	授業期間(正式運用)		休業期間(試行運用)		休館日
	月～金	土日祝日	月～金	土日祝日	
開館時間	8:30～24:00	9:00～20:00	9:00～20:00	9:00～18:00	年末年始(12/29～1/3)及び本学が定める休業日
貸出時間	9:00～22:00	9:30～19:30	9:30～19:30	9:30～17:30	
研究個室・セミナー室の利用	9:00～23:30	9:00～20:00	9:00～20:00	9:00～18:00	

(2014年度からの中央図書館のサービス時間)

(情報サービス課長 細川 聖二)

3.文庫・新書・電子リソースの拡充

近年、大学の研究力強化と学士力養成が大きな課題となっています。課題の解決に向けて、附属図書館の持つ研究支援・学習支援機能も一層の強化が求められており、そのためには図書館資料の充実が欠かせません。

2013年度に附属図書館では、2つの面で重点的な資料整備を行いましたのでご紹介します。

1.文庫・新書の拡充

1つ目は文庫・新書の拡充です。学習支援機能強化の一環として、継続購入する文庫・新書の種類を増やしました。

附属図書館では、これまで岩波文庫、岩波新書、講談社学術文庫、講談社ブルーバックス、東洋文庫、文庫クセジュの6つのシリーズを継続的に購入してきました。

附属図書館では、毎年約29,000冊の図書を受け入れ、そのうちおよそ9,000冊が新刊図書です。中でも、文庫・新書は利用が多く、学生の皆さんから種類を増やして欲しいという要望も寄せられていました。

こうした要望にお応えし、手軽に読めて学生の皆さんの自主的な学習や教養を深めるために役立つものとして、新たに岩波ブックレット、講談社現代新書、講談社文芸文庫、新潮新書、中公新書の5種類を継続購入し、中央図書館に配置することとしました。

今回新たに追加した文庫・新書は、既刊分約3,000冊を購入し、中央図書館の文庫・新書コーナーに配架しました。現在、コーナー全体では、約15,000冊の文庫・新書が利用できます。

これに合わせて、これまでスタディスペースにあった文庫・新書コーナーを、ラーニング・スクエアに移設しました。学生用雑誌も移動し、シラバス図書、授業関連必読図書と共に全て同じエリアに配置しました。



このエリアには、移動可能な閲覧机とゆったりとしたソファを配置し、快適な学習空間とくつろげる空間を用意しています。

また、図書はカバーをはずさずに配架することとし、新刊を見つけやすく、手にとりやすいようにいたしました。

2.電子リソースの拡充

2つ目は電子リソースの拡充です。研究力強化のために、電子ジャーナル等のバックファイルを中心に電子リソースを整備しました。

筑波大学では、継続的に購入する電子ジャーナル等は、全学的な整備方針を定めて整備しています。

一方、それらのバックファイル(バックナンバー)は、買い切り商品であることから、毎年度計画的に整備を進めて来ました。

2013年度は筑波大学の研究大学強化促進事業の支援を受け、これを大幅に増強することができました。

電子ジャーナルでは、Natureとその関連誌23誌のうち未整備だった関連誌3誌を、ScienceDirectの全28分野約2,000誌のうち未整備だった23分野約1,360誌のバックファイルを購入し、創刊号から最新号まで全てが読めるようになりました。

電子ブックでは、Springer eBookのうち需要が多いBiomedical and Life ScienceとComputer Scienceの2分野の新刊約2,200点を購入し、電子ブック全体では、約22,000冊が読めるようになりました。

また、人文社会系のデータベースとして、18世紀の英国及び英国植民地、その他の地域の英語刊行物約180,000点の全文データベースEighteenth Century Collections Online (ECCO)を導入しました。

これらの電子リソースは、学内の端末ならどこからでもアクセスできます。また、リモートアクセス(Tulips-Warp)を使って学外からアクセス可能なものもあります。

今回整備した文庫・新書や電子ジャーナル、電子ブックなど、図書館で利用できる資料は、2014年3月から稼働開始した新図書館システムが提供するディスカバリサービス(Tulips Search)でまとめて検索し、電子リソースであればすぐに読むことができます。

今後は、整備した資料の利用状況を評価し、必要とされる資料のさらなる充実を図っていく予定です。

皆様のご利用をお待ちしております。

(情報管理課副課長 山本 淳一)

4.図書館システム更新

筑波大学電子図書館システム(Tsukuba University Library Information Public Service: TULIPS)が2014年3月にリニューアルされました。今回のリニューアルで大きく変わった3点につきまして、簡単にご紹介いたします。

1.ディスカバリサービス

今回のリニューアルの最大の目玉はディスカバリサービスの導入です。ProQuest社のSummonというディスカバリサービスを導入しました。

Summonは、日本の大学図書館での導入はそれほど多くはない状況ですが、世界的には大変メジャーな製品です。

ちなみに、附属図書館で導入したものは、Summon2.0という新しいインターフェースのディスカバリサービスで、導入は日本初となります。

ディスカバリサービスは、使う人が「何を検索するか?」ということ意識する必要がありません。利用者の必要としている情報を、様々な情報源(電子ジャーナル・データベース・OPAC・リポジトリ等)の中から発見してくれるサービスだからです。その使い勝手は丁度Googleを検索するような感じです。

ディスカバリサービスによって、大学における研究や学習に必要な情報の検索や入手が、今までよりも効率的に進められるようになると考えております。



2.Webページ

附属図書館のWebページもデザインを一新しました。今回のデザインは、青を基調とし、大学図書館のページとしてふさわしいシンプルかつスタイリッシュなデザインとなっています。また、最近のトレンドでもあるフラットデザインも取り入れています。

さらに、スマートフォン・タブレットの利用が増えていることを踏まえてレスポンスデザインを採用し、スマートフォン・タブレットからも快適に利用できるようにしました。

従来は、導入業者と図書館とでデザインを行っていましたが、

今回は、図書館情報メディア研究科の宇陀則彦准教授と、株式会社jiseCHI(ジセカイ)の落合陽一氏に基本デザインを依頼しました。さらに、これまでの複雑だったページを一新するために、DrupalというCMS(コンテンツマネジメントシステム)を導入し、ページ構成を一から見直しました。

ページのリニューアルは現在も行っており、今後は、これまで以上に多くの情報を発信していくことができると考えております。



3.施設予約

附属図書館では1974年の開館以来、研究個室・セミナー室の予約は、カウンターで紙により行ってきました。今回のリニューアルでは、初めてこの仕組みを見直し、すべてをWeb上で行うことができるようにしました。



研究個室・セミナー室の予約はもちろん、部屋の空き状況を確認することもWeb上から可能になりました。図書館に来なくても自宅や研究室から24時間いつでも予約をすることができます。

また、スマートフォン・タブレットにも対応しておりますので、PCが手元にない環境からでもご利用いただけます。さらに、予約した時間になるとメールで通知してくれる機能もあります。

機能が大幅に向上した施設予約システムをぜひご利用ください。

(電子図書館担当係長 平田 完)

5. 知の開拓者たち—筑波大学開学40+101周年記念特別展

平成25年度の特別展は、「知の開拓者(パイオニア)たち—筑波大学開学40+101周年記念特別展」と題して、10月21日(月)から11月22日(金)まで中央図書館貴重書展示室で開催しました。

筑波大学は2013年10月1日に開学40周年を迎えましたが、その歴史はさらに101年前の明治5(1872)年、師範学校創設まで遡ることができます。筑波大学では、開学40+101周年を記念して様々な記念事業を開催しており、本展もこの一環として開催しました。附属図書館研究開発室・人文社会系の山澤学准教授を中心に、篠塚富士男情報管理課副課長との企画・立案のもと、附属図書館研究開発室プロジェクトの一つとして位置づけ、図書館職員8名によるワーキンググループが実施にあたる体制で行いました。

本展では、とくに東京教育大学開学以前の前身校に焦点をあて、近代日本における学問の中心にあった知の開拓者(パイオニア)である前身校教員の業績の一端を、附属図書館所蔵資料をもとに紹介し、あわせて附属図書館が果たすべき役割を再確認する機会としました。展示資料の選定にあたっては、前身の東京文科大学・東京教育大学附属図書館で使用していた独自の図書分類表を参考に、当時の学問分野から多種多様な資料を紹介しました。中でも、図書館に深いかかわりを持つ三宅米吉、松井簡治、諸橋轍次、能勢朝次先生については、顔写真をパネルにし関連資料の紹介を行いました。

反響の大きかった資料としては、『蒙古襲来絵巻』と諸橋轍次先生の書が挙げられます。『蒙古襲来絵巻』は、宮内庁所蔵旧御物の絵図を忠実に模写したものです。特別展期間中は、大学のホームページでも画像が公開され、学園祭期間中の11月4日には、特別公開として本学所蔵本と旧御物の複製本とを並べて展示し、人物の表情や「てつはう」(鉄の容器に火薬を詰めた破裂弾)の描写の違いを熟覧する機会を持ちました。また、諸橋轍次先生は『大漢和辞典』の編者として著名ですが、東京高等師範学校・東京文科大学で長く教壇に立たれ、東京文科大学附属図書館では第2代館長を務められた方です。展示資料は、「朱熹読書法語」から揮毫されたもので、東京教育大学時代には附属図書館の学生閲覧室に掲げられていた大きな額装の書です。両者とも、筑波大学開学以来、初めての一般公開でした。



本展の来場者数は1,181名でした。前身校とその教員に焦点をあてたため、本学の同窓会「茗溪会」では、季刊誌「茗溪」やWebページを通して紹介され、卒業生も多数来場しました。また、11月11日には山澤学准教授がラヂオつくばにゲスト出演して本展の紹介を行い、同行したワーキンググループのメンバーが、その様子をTwitterで実況中継しました。

本展の実施にあたっては、ワーキンググループが一丸となり、ポスターデザイン、資料撮影から図録の編集・校正、看板・展示パネル・キャプションの作成などを行いました。展示キャプションについては、展示室の薄暗い中でも来場者が読みやすいようデザインの工夫を行いました。

今回の図録では、展示資料の紹介に加えて資料編を作成しました。その内容は、筑波大学開学以来の図書館の歩み(年表)や高等師範学校以来の歴代図書館長一覧、平成7年度以降の特別展・企画展一覧、附属図書館が所蔵する文庫・コレクション一覧などです。開学40+101周年という節目の年を迎えて、現在までの図書館の記録をまとめ、次の時代に繋げる良い機会となりました。

(特別展WG主査 大曾根 美奈)

パイオニア
平成25年度筑波大学附属図書館特別展「知の開拓者たち」については、以下のサイトをご覧ください。

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/pioneer40/index.html>

6.ラーニング・アドバイザーの活動

1.2013年度の特徴

2011年5-6月のモニタースタッフによる試行、また2011年10月のラーニング・アドバイザー(以下LA)としての活動開始以来3年目(1年間通した活動としては2年目)となり、知見の蓄積と体制の確立によって安定的な運用が行われるようになった一方で、LAの学生としての視点を生かした企画の実現も期待されました。

2013年度のLAの活動の特徴として挙げられるのは、定期的かつ頻繁なミーティングの開催です。2012年度までもLA同士が集まって話をする機会はありましたが、回数が少なく職員の呼びかけによって不定期に開催されるに留まっていました。2012年度も当初は月1回程度の定期的なミーティング開催を計画していましたが、LA同士の日程調整が困難であったり、全員が集まって作業を行う必要性のある企画が乏しかったりしたことから、特に年度後半にはミーティングが開催されなくなっていました。

しかし職員がLAに対して行ったインタビューでは、業務に関する情報交換、LA同士の繋がり強化、LAらしい企画の立案といった点から、顔を合わせたミーティングへの要望が多く聞かれました。

そのため、2013年度では定期的なミーティングを(業務として)開催できるよう、勤務時間増加を積算した予算計画を立て、結果として18回ものミーティングを開催することができました。これにはLA自身が行いたい活動や企画のアイデアを数多く出し、ミーティングを行うモチベーションが終始高かったことも要因として挙げられます。またミーティングの日程・内容についてもLAが自主的に設定したり、情報共有ツールを積極的に活用してLA同士だけでなく職員ともコミュニケーションが円滑に行われたりするなど、LAの積極的な取組に依るところが大きかったと考えます。

2.2013年度の諸活動

2013年度のLAの活動は、学生サポートデスクの相談内容の分析により、まだサポートデスクでの支援内容の周知が不十分との認識から、まず広報活動に重きが置かれました。LA自身が新入生履修ガイダンスや各種オリエンテーションやセミナー、授業などで学生サポートデスクの紹介を行ったり、学生サポートデスクの紹介動画を作成したりするなどの活動が行われました。また春・秋に開催されたライティング支援連続セミナーに参加し、セミナーの内容について受講者の立場から体験記を作成し附属図書館広報誌「Prism」として公開したり、

学園祭での中央図書館オリエンティングや2012年度に引き続きリアルブックログ本棚を企画したりするなど、イベントと連携した企画の立案・実施も行われました。

一方で、島根大学で行われた「大学図書館学生協働交流シンポジウム」での基調講演や「大学図書館研究」誌への原稿執筆などの学外に向けた成果発表にも注力し、運用開始から一定期間を経たLAの活動の総括を行う姿が見られました。

その他、授業期間の毎週月曜日に中央図書館エントランスで行われる異分野交流プレゼン「MMI (Monday Morning Institute)」特別週間(その週だけ毎日開催)への登壇や、MMIと同じくつくば院生ネットワーク(TGN)が企画運営した「院生プレゼンバトル」最優秀プレゼンターを講師とした「プレゼンテーションセミナー」を企画・運営するなど、他団体と連携した企画の立案実施を行うといった、学生同士のネットワークを生かした活動も行われました。

3.今後へ

2013年度のLAは上記のような様々な活動を行いました。LAミーティングが定期的に開催されたことで、直接顔を合わせてアイデアを出し合う機会が増えたこと、LA同士、職員との情報共有、コミュニケーションが円滑に行われたことが、これらの活動を支える要因になったと考えられます。

もちろんLA自身の資質にも大いに依るところはありますが、前任LAやLA経験者との協力などによりLAの活動の継続性を維持しつつ、いかにして当年度のLAの素質を引き出し、魅力を発揮させるかが職員に問われるということも認識しています。

これまでの知見を活かして2014年度も積極的なLAの活動が展開されるよう、職員側としても運営体制の構築と展開が求められています。

(学習支援推進WG 嶋田 晋)



4 資料紹介

貴重なアニメーションをDVDで ―「世界アニメーション映画史 第三期」

一本がおよそ5万円もするDVDは、めったに出会うことがない。それが30本揃って、大学中央図書館に所蔵されているのである。それらのタイトルは「世界アニメーション映画史」。1930年代から50年代の重要なアニメーション映画作品が収録されている。貴重な視聴覚資料であることは言うまでもないが、だれもが楽しめるエンターテインメントでもあるので、1本でも視聴してみると、日常の喧騒を離れた爽快感が体験できるだろう。ここで紹介するのは、配架されたばかりの「第三期」である。

「世界アニメーション映画史 第三期」は21巻から30巻までをカバーしていて、巻のタイトルを概観するだけで、収録内容がよくわかる。巻のタイトルは以下になっている。

21巻：マックス&デιβ・フライシャー VI

22巻：アブ・アイワークス II

23巻：テックス・アヴェリー II

24巻：フリッツ・フレーリング

25巻：マックス&デιβ・フライシャー VII

26巻：マックス&デιβ・フライシャー VIII

27巻：フランク・タシュリンとワーナーの俊英たち

28巻：ウォルト・ディズニー II

29巻：テックス・アヴェリー III

30巻：ウォルト・ディズニーのプロパガンダフィルム

「マックス&デιβ・フライシャー」という名前が何度も登場していることに気づくのであるが、事実、彼らが手がけた作品群は、第三期の目玉になっている。なかでも「ベティ・ブーブ」という若い女のキャラクターが登場する「ベティ・シリーズ」が、その大半を占めている。ベティを主人公とした作品は、テーマが斬新であることが、一つ目の特徴としてあげられる。そのテーマの斬新性は、普通の女のひと（ベティ）が大統領選挙に立候補し、ついに選出される「ベティの大統領選挙」（1932年）に見られる。ベティは「この国に必要なのは、たくさんの楽しみよ」と指摘し、「映画もキャバレーもライブもタダに」と宣言する（図1）。そうした公約を、ミュージカル風に歌と踊りで表現していく。1930年代には「新しい女」の出現があったにしても、社会における男女差を考慮すると、ベティの大統領選出は画期的な発想と言える。

ベティ・シリーズの二つ目の特色は、彼女の踊りと歌である。可愛らしさのほかにセクシーなアピールも存分に行う彼女は、体をくねくねと独特に動かしながら踊り、甘えた声で歌う。とつぜん（ほぼ）全裸になりかけるシーンも多数出てくる。ハワイアンダンスを踊るシーンでは、腰巻きとレイの首飾りだけで、長いあいだ

華麗な踊りと歌を披露する（図2）。ベティはどの映画においても、体をおもしろい形にくねらせながら踊るのであるが、どれほど魅惑的な肉体が強調されようとも、また男の胸に抱かれようとも、セクシュアルな事件は起こらず、可愛さが強調される。



図1



図2

ベティ・シリーズの三つ目の特色である自由自在な変身は、さりげなく起こっているため、見落としがちであるが、たとえば「ベティのお伽の国訪問」に一例がある。そこでは犬が突然、ひとつながりのソーセージに変身する（図3-4）。ベティはソーセージにはならないが、それでも人魚になったり、驚くほど太った女性になったりする。



図3



図4

可愛く魅惑的なベティは、初期には豊富な肉体を与えられず、名前すらなく、今ほど可愛くなかった。今回は「第三期」の紹介であるが、過去に図書館に所蔵された「第一期」と「第二期」のベティ作品を見ると、キャラクターの変貌の様子がわかるだろう。わたしはまだ確認していないが、一番はじめにベティが登場したときは、イヌのキャラクターだったそうである。

ベティ・シリーズのほかにも、ディズニー・アニメーションをはじめ、貴重な作品が「第三期」に収録されている。ディズニーの戦時中のプロパガンダ・アニメも見どころのひとつである。

（人文社会系教授 今泉 容子）

5 職員の活動

1.出張報告

1.国際図書館コンソーシアム連合(ICOLC: International Coalition of Library Consortia)2013年春季会合参加報告



会合会場の風景

2013年4月21日から4月24日にかけて、カナダのトロントで開催されたICOLC2013年春季会合に、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE: Japan Alliance of University Library Consortia for E-Resources)の一員として参加しました。ICOLCは世界200カ国以上の図書館コンソーシアムからなる組織で、年に2回、会合を開催しています。コンソーシアムに携わる図書館員にとって、これらの会合は、課題を共有したり議論したりする場として重要な役割を持っています。日本では、2011年4月に、約500の国公立大学図書館が参加するJUSTICEが発足し、電子リソースをはじめとした学術情報を、国内の大学に安定的・継続的に確保して提供するための活動を推進しています。筑波大学附属図書館は、会員館であるとともに、JUSTICEの運営や出版社等との契約条件の交渉にも携わっています。JUSTICEの活動の中心は電子リソースの価格交渉にあります。北米のコンソーシアムの活動はそれにとどまらず、電子ブックの需要主導購入モデル(DDA: Demand-Driven Acquisition)の共同導入や紙媒体資料の共同管理(シェアード・プリント)、図書館システムの共有などに広がりを見せています。会合では、そのような活動を通じていかにしてコンソーシアムの価値を高めるか、という参加者の問題意識が強く感じられました。中でもグループ討議では、テーマの一つとして「コンソーシアムの価値の測定」が取り上げられ、その活発な意見交換の様子から、コンソーシアム運営におけるコスト意識の強さがうかがえました。会合への参加を通して、共通の課題に対応するスピード感や機動力、解決への協力を惜しまない姿勢を持った図書館員たちが世界各国にいることを知り、大変嬉しく、また心強く感じました。彼らに負けないよう、他国の取組みの把握につとめつつ、これからもJUSTICEの活動に貢献できればと考えています。

(電子リソース担当専門職員 斎藤 未夏)

2.ETD2013

2013年9月23日から26日までETD 2013が香港で開催されました。ETDとは“Electronic Theses and Dissertations”の略称であり、電子学位論文を意味しています。ETD 2013は電子学位論文についての国際会議です。この国際会議に本学から電子図

書館担当の中山知土と、リポジトリ担当の真中孝行が参加しました。

●参加の背景

2013年4月に日本の学位規則の一部が改正されました。改正によって博士学位論文の公表方法が印刷に代えてインターネットによる公表となりました。これまで一般に入手が困難だった学位論文がオープンアクセス化されることで、容易に閲覧することが可能になりました。日本の学術流通の大きな転換点といえるでしょう。この国際会議に参加する大きな目的は世界各国の電子学位論文の公表の現状を知ることでしたが、大きな変化のあった日本の現況について発表することも目的のひとつでした。国立大学図書館協会海外派遣事業の派遣者として中山情報管理課主任が“The possibility of networked electronic theses in Japan”(日本におけるネットワーク化された電子学位論文の可能性)と題した発表を本会議2日目に行いました。

●ETD 2013

会議会場は香港中央図書館でした。主催はNDLTD(Networked Digital Library of Theses and Dissertations)ですが、今回共催であるホスト館の香港大学図書館が中心となって運営・進行されました。9月22日前後に香港に接近・上陸した台風のため飛行機の欠航が相次ぎ、スピーカーの不参加で開催自体危ぶまれた会議は100名前後の参加者を得て問題なく行われました。参加者は地元アジアの香港、中国、インド、アラブ世界のほか、北米、南米、ヨーロッパ、アフリカと様々でした。3日間の本会議はいくつかのキーノートと多くのセッションからなり、一つのセッションは20分から25分のスピーチと数分の質疑応答で構成されていました。会議の合間のランチやティーブレイクにも活発に情報交換する参加者の姿が多く見られました。今回の出張に参加して今回会議に参加することで、世界の学位論文の電子公開に対する力の入れようを実感として強く感じる事ができました。また図書館が学位論文の執筆支援を数多く行っていることを知り、今後日本の大学図書館でも同様の動きが進む予想と、それを行うために図書館自体の地力を上げる必要性の認識を新たにしました。



発表する中山電子図書館担当主任

●香港大学図書館見学

会議が3日目午前で終了したあと、有志により香港大学図書館を見学させてもらいました。香港大学のラーニング・コモンズも素晴らしく機能的で、ほぼ満席の利用者で活気に満ちたものでした。香港に行く機会があれば是非見学をおすすめします。また香港大学のリポジトリと研究者情報の融合したデータベース“The HKU Scholars Hub”の機能と考え方もとても魅力的です。この考え方を自館のシステムで取り入れられたらよいのではと個人的な感想を持ちました。

(リポジトリ担当専門職員 真中 孝行)



ポスター発表(第15回図書館総合展)

3. 島根大学

2013年9月5日(木)から6日(金)にかけて、島根大学において第3回大学図書館学生協働交流シンポジウムが開催されました。大学図書館で活躍する学生たち=学生協働の活動内容を互いに報告し合い、交流を深めることを目的としたもので、本学の附属図書館にてラーニング・アドバイザー(以下LA)を勤める大学院生2名も、基調報告の登壇者として招かれました。当日は「ラーニング・スクエアにおける学習支援活動」と題して、附属図書館におけるラーニング・コモンスの概要とその設計意図、提供しているサービスの内容と実態、LAとしての日常業務、2013年度からの新しい取り組みや図書館職員との関わりなどを報告しました。この際に用いたプレゼンテーションは報告者以外のLAも交えて、職員も協力しながら2ヶ月ほどをかけて作成しました。報告後は、これから学生によるチューター制度の導入を考えている他大学の参加者から質問をいくつか受けました。「自分の勉強・研究の負担になってはいないか」「ミーティングや勤務で拘束されて支障はないか」「学生数に比べて相談数が少ないのではないか」「相談を増やす方法は、宣伝以外に何か考えているのか」といった、実施しながら直面する問題にどう向き合っているかに関する質問が多くありました。記録的な豪雨の直後で参加できない大学もありながら、多くの大学、短大の学生、職員が集まり活発な活動の報告がなされました。2日目にはワールドカフェ形式のディスカッションも行われました。学生と職員が入り混じってグループが構成されており、特に学部生から語られる素朴な図書館体験は利用者目線の生の声として非常に参考になりました。筑波大学では平日の夕方から夜間の貸出業務を学生アルバイトに任せていますが、館内の装飾や製架、展示、資料の装備といった業務にまで学生のアイデアを取り入れている図書館も多くあり、それらの活動に従事している学生からの報告はとても生き生きとしたものでした。また、学生を連れて町の書店まで本を選びに行く選書ツアーや、ピブリオバトルといった参加型の活動を取り入れている図書館も多く、運営の仕方も含めて大いに参考にしていきたいと思います。

(図書サービス担当 石津 朋之)



4. 釜山大学校

筑波大学は2009年4月から、韓国の釜山大学校と図書館情報学及び関連分野において交流協定を締結しています。それに基づき、知識情報・図書館学類の学生が釜山大学校へインターンシップに出かけ、逆に知識情報・図書館学類が釜山大学校の文献情報学科の学生のインターンシップを受け入れるという形での交流などが行われています(なお、附属図書館でも知識情報・図書館学類からの依頼を受けて釜山大学校の学生のインターンシップを受け入れています)。その縁もあり図書館(職員)同士の交流・訪問について釜山大学校から本学附属図書館長宛に提案がありました。同年8月には釜山大学校図書館の館長と職員3名が筑波大学を来訪して、情報交換と中央図書館見学を行い、年度末までに筑波大学からも釜山大学校を訪問する旨が確認されました。以上の経緯から、2014年2月25日に中山附属図書館長と3名の附属図書館職員が釜山大学校図書館を訪問しました。図書館の見学だけでなく、釜山大学校図書館で行っている先進的な研究支援・学習支援の様々なサービスについて情報交換を行いました。特に引用文献データベースを使用した研究支援情報サービスや、各学部・学科に特化した学習支援情報



ポータルである学科別トピックガイドなどについて、詳細にリサーチを行うことができました。図書館見学においても、中心的役割を担う第1図書館のほか、訪問直前にリニューアルしたばかりの第2図書館も視察し、24時間利用可能な学習室や、アーカイブなどについて、丁寧に解説して頂きながら利用状況を確認することができました。情報交換や見学を通じて、双方にとって共通の課題があることの認識や、文化や学生の学習スタイルの差異による提供サービスの比較などについてお互いに知見を深めることができたばかりでなく、引き続き交流を進めていくことが確認されました。今後、両大学の図書館及び職員の密接な交流や連携が期待されます。

(企画渉外担当 嶋田 晋 / 図書サービス担当 石津 朋之)

2.論文発表・研修における講師等

当館職員の論文執筆や、学外の研修・シンポジウム等における講師・事例発表等の活動記録です。

1.執筆活動

内島秀樹.特集、大学図書館2013:博士論文のインターネット公表義務化と大学図書館.図書館雑誌.2013、Vol.107、No.9、p.571-573.

2012年度の学位規則改正の背景と骨子、公表の仕組み、大学図書館界の取り組みを概説した報告論文。

→Web でフルテキストを入手できます。

[つくばリポジトリ URL](http://hdl.handle.net/2241/00121684)

<http://hdl.handle.net/2241/00121684>

堀智彰、益子博貴、村尾真由子、大曾根美奈、渡辺雅子、辻慶太、松村敦、宇陀利彦.図書館の探検的学習を目的とした電子教材の開発.第21回情報知識学会年次大会予稿.東京、2013-05-25/26、情報知識学会.

→Web でフルテキストを入手できます。

[つくばリポジトリ URL](http://hdl.handle.net/2241/119361)

<http://hdl.handle.net/2241/119361>

加藤信哉.高等教育における図書館サービスの個人化<文献紹介>.カレントアウェアネス-E.2013、No.239.

→Web でフルテキストを入手できます。

[カレントアウェアネス・ポータル](http://current.ndl.go.jp/e1445)

<http://current.ndl.go.jp/e1445>

嶋田晋、福井啓介.筑波大学附属図書館における国際インターンシップの受入について.大学図書館研究.2013、Vol.98、p.19-25.

筑波大学附属図書館における釜山大学校及びハワイ大学からの国際インターンシップ学生受入に関する報告論文。

→Web でフルテキストを入手できます。

[つくばリポジトリ URL](http://hdl.handle.net/2241/00121469)

<http://hdl.handle.net/2241/00121469>

内島秀樹、杉田茂樹、鈴木雅子、西園由依、土出郁子.国際連携活動の実践とノウハウ:DRFの活動を通して.大学図書館研究.2013、Vol.98、p.40-50.

機関リポジトリのコミュニティであるデジタルリポジトリ連合(DRF)が行ってきた、リポジトリに関する国際的な連携活動に関する報告論文。

→Web でフルテキストを入手できます。

[つくばリポジトリ URL](http://hdl.handle.net/2241/00121685)

<http://hdl.handle.net/2241/00121685>

村尾真由子.特集.多言語・多文化サービス:筑波大学附属図書館プロモーションビデオ4か国語字幕版の提供及び留学生サービスの現状と課題.医学図書館.2013、Vol.60、No.4、p.413-417.

筑波大学附属図書館プロモーションビデオ制作の背景やコンセプト、4ヶ国語字幕版の制作と、留学生サービスの今後の展望について述べた報告論文。

→Web でフルテキストを入手できます。

[つくばリポジトリ URL](http://hdl.handle.net/2241/121249)

<http://hdl.handle.net/2241/121249>

赤崎久美、斎藤未夏.国際図書館コンソーシアム連合(ICOLC:International Coalition of Library Consortia)-2013年春季会合参加報告.大学図書館研究.2013、Vol.99、p.56-66.

世界200カ国以上の図書館コンソーシアムからなる組織ICOLCの2013年春季会合における議論をまとめた報告論文。

加藤信哉.大学図書館の機能再考.私立大学図書館協会会報.2014、No.141、p.133-160.

大学図書館を取り巻く環境の変化に対応した教育・学習支援、研究支援の内容についてレビューした論文。

→Web でフルテキストを入手できます。

<http://www.jaspul.org/ind/asset/docs/kaihou141.pdf>

加藤信哉.21世紀のアクセスサービス<文献紹介>.カレントアウェアネス-E.2014、No.256.

→Web でフルテキストを入手できます。

[カレントアウェアネス・ポータル](http://current.ndl.go.jp/e1548)

<http://current.ndl.go.jp/e1548>

2.ポスター発表

"Working towards a Global Open Access Network for Scholarship" 16th International Symposium on Electronic Theses and Dissertations (ETD 2013), 2013.9.23-9.26, Hong Kong Central Library.

香港中央図書館において開催された第16回電子学位論文国際会議(ETD 2013)で、真中リポジトリ担当専門職員が、本ポスターにより、オープンアクセスの実現を支援するための国際連携組織「オープンアクセスリポジトリ連合」(Confederation of Open Access Repositories(COAR))の活動の紹介を行いました。

「成長する図書館～ラーニング・スクエアでできるようになった7つのこと～」第15回図書館総合展ポスターセッション、2013.10.29-10.31、パシフィコ横浜.

筑波大学中央図書館ラーニング・スクエアの3年間の歩みを「できるようになった7つのこと」の点から振り返ったポスター。

→Web でフルテキストを入手できます。

[つくばリポジトリ URL](http://hdl.handle.net/2241/120315)

<http://hdl.handle.net/2241/120315>

3. 講師・事例報告

開催日	氏 名	催し名 【テーマ・レジュメ・参考URL】
2013. 8. 8	加藤 信哉	平成25年度日本薬学図書館協議会研究集会(愛知学院大学) 【テーマ】大学図書館の研究支援 【レジュメ】 http://hdl.handle.net/2241/119626
2013. 8.30	加藤 信哉	私立大学図書館協会第74回総会・研究大会「大学図書館の存在意義とその役割を再考する」(中京大学) 【テーマ】大学図書館の機能再考 【レジュメ】 http://hdl.handle.net/2241/119627
2013. 9. 5	秋山茉莉香 佐藤 良太	第3回大学図書館学生協働交流シンポジウム「私たちの手で作り出す図書館の形」(島根大学) 【テーマ】ラーニング・スクエアにおける学習支援活動 【レジュメ】 http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/LA/sympo2013/pdf/keynote2.pdf
2013. 9.25	中山 知士	ETD 2013 Hong Kong : 16th International Symposium on Electronic Theses and Dissertations(香港大学) 【テーマ】The possibility of networked electronic theses in Japan 【レジュメ】 http://lib.hku.hk/etd2013/presentation/Nakayama%20-%20The%20Possibility.pdf
2013.10. 4	加藤 信哉	愛媛大学図書館学術講演会(愛媛大学) 【テーマ】図書館における学習支援ーラーニング・ commonsの活用
2013.10.28	加藤 信哉	図書館の電子書籍のあり方を考えるセミナーin東京(内田洋行「ユビキタス協創広場CANVAS」) 【テーマ】大学図書館と電子書籍 【レジュメ】 http://www.keiyou.jp/elpc/document/kato_datum20131028.pdf
2013.10.29	中山 知士	第15回図書館総合展 DRF10:躍動するオープンアクセス(パシフィコ横浜) 【テーマ】世界の学位論文のインターネット公表事情 ~ETD 2013報告~ 【レジュメ】 http://hdl.handle.net/2241/119929
2013.11.18	内島 秀樹	日本体育図書館協議会 2013年度研修会(オープンセミナー)「学位論文電子化とJAIRO Cloud-リポジトリの構築-引越サポート構想を知る-」(日本体育大学) 【テーマ】自前リポジトリをJAIRO Cloud に引越すー筑波大学での学位論文電子化と引越の実証実験状況ー
2013.12.20	細川 聖二	平成25年度国立大学図書館協会地区助成事業(中国四国地区)「実務ワークショップ(ILL)」 【テーマ】GIFプロジェクト:10年目の現状と今後について
2013.12.28	加藤 信哉	第2回みちのく図書館情報学研究会(東北大学) 【テーマ】大学図書館の価値と評価 【レジュメ】 http://hdl.handle.net/2241/120511
2014. 2. 8	加藤 信哉	イリサーチとオープンアクセス環境下における学術コミュニケーションの総合的研究 研究成果報告会(慶應義塾大学) 【テーマ】電子ジャーナルのビッグデータの功罪:データと経験から
2014. 2.20	加藤 信哉	国立大学図書館協会地区協会 関東甲信越地区協会セミナー(筑波大学) 【テーマ】シェアード・プリント
2014. 2.28	加藤 信哉	KEIO 大学図書館国際フォーラム2014「大学図書館における冊子体コレクションの将来~日本版Shared Printの可能性~」(慶應義塾大学) 【テーマ】日本:状況報告ー共同保存図書館からシェアード・プリントへ 【レジュメ】 http://www.lib.keio.ac.jp/jp/sharedprint/20140228_japan_situation.pdf

3. 職員研修会

2013 年度は、職員の資質向上と経験の共有を図るため計 8 回行いました。

日 時 ・ 場 所	講 師	参加人数
第1回 2013. 6. 3 13:00 - 16:30 集会室		
国立大学図書館協会関東甲信越地区協会 フレッシュ・パーソン・セミナー	加藤 信哉(副館長) 細川 聖二(情報サービス課長)	16人
第2回 2013. 6. 5 - 6.13 会議室		
新人職員研修		対象3人
第3回 2013. 6.20, 6.27 集会室		
視覚障害者サービス	柳澤由紀子(ボランティア)	39人
第4回 2013. 6.26 9:00 - 12:00 集会室		
学習支援サービス人材養成のためのライティング支援セミナー	小林至道(関西大学教育推進部特任助教)	27人
第5回 2013.11.28 14:00 - 15:00 集会室		
ETD2013参加報告	真中 孝行(リポジトリ担当 専門職員) 中山 知士(電子図書館担当 主任)	16人
第6回 2013.12.12 集会室		
茨城県図書館協会ステップアップ研修 図書館員のためのWebサービス入門講座 ~今日から始めたいお手軽Webサービスのすすめ~	川嶋 齊(千葉県野田市立興風図書館) 塩崎 亮(国立国会図書館)	42人
第7回 2014. 2. 6 10:00 - 16:00 集会室		
無線綴じでメモ帳を作る	高尾 齊(キハラ株式会社)	26人
第8回 2014. 2.24 9:15 - 12:00 集会室		
附属図書館研究開発室研究成果報告会	加藤 信哉(副館長) 松井 敏也(芸術系) 斎藤 未夏(電子リソース担当専門職員/学習支援推進WG) 佐藤 良太(システム情報工学研究科博士後期課程/ラーニング・アドバイザー) 宇陀 則彦(図書館情報メディア系) 落合 陽一(ジセカイ株式会社)	30人

6 トピックス

1. サービス・活動

日 付	内 容
2013.4.1 - 2014.2.28	(中央図書館) 開館時間延長試行 (月～金曜日は 8 時 30 分から 24 時まで開館。土日祝日は 20 時まで開館。)
2013.4.1	電子ジャーナルバックファイル (ScienceDirect の分野別コレクション 2 分野、Nature 関連誌 2 誌、他) を導入
2013.4.19 - 2014.2.7	(中央図書館) エントランスホールでの学生交流企画 Monday Morning Institute (主催：つくば院生ネットワーク) ※6 月より「プレゼンひろば」に改称
2013.4.22 - 5.24	(中央図書館) 企画展「書 Book-Calligraphy Exhibition」(国際書道クラブとの共催)
2013.5.13 - 5.23	(中央図書館) 企画展「筑波大学中央図書館×TICAD V 学生プロジェクト Exhibition Week」 (主催：TICAD V 学生プロジェクト)
2013.5.30 - 7.18	(中央図書館) ライティング支援連続セミナー「知識と言葉をめぐる冒険」
2013.5.10	"Tulips mobile" 公開 (企画・制作：筑波大学 システム情報工学研究科 大学院生)
2013.6.17 - 6.21	(中央図書館) 企画展「あなたからクローバリーゼーしょん!! 6 月 20 日は世界難民の日」 (主催：CLOVER ～難民と共に歩むユース団体～)
2013.7.3	(中央図書館) 附属図書館ボランティアによるおりがみ講習会
2013.8.1	電子ジャーナルリスト全面リニューアル
2013.8.29	電子ジャーナル Journal of Visualized Experiments (JoVE) 導入
2013.9.1 - 9.30	(中央図書館) 休業期間における臨時開館・開館時間延長試行 (月～金曜日は 9 時から 20 時まで開館。土日祝日は 10 時から 18 時まで開館。12/27 は 9 時から 17 時まで開館)
2014.2.13 - 2.28	
2013.12.27 - 12.28	
2014.1.4 - 1.5	
2013.10.1	附属図書館 Facebook による広報開始
2013.10.16	台風のため全館 13:30 まで臨時閉館
2013.10.21 - 11.22	平成 25 年度附属図書館特別展「知の開拓者 (パイオニア) たちー筑波大学開学 40+101 周年記念特別展ー」
2013.10.21	(中央図書館) 附属図書館講演会「学位規則の改正と学位論文のオープンアクセス化」
2013.10.25 - 11.29	(中央図書館) 企画展「Learning AdviserXBooklog の本棚」
2013.11.1 -	ブックカバーを付けたままの図書の配架を開始
2013.11.3 - 11.24	(中央図書館) 企画展「僕らの夏休みプロジェクト」(主催：「僕らの夏休みプロジェクト」筑波支部)
2013.11.3 - 11.4	(中央図書館) 企画展「近未来らいぶらり」(図書館情報メディア研究科 宇陀・松村研究室と共催)
2013.11.3 - 11.4	(中央図書館) ラーニング・アドバイザーによる学園祭企画「筑波大学中央図書館 本の樹海」
2013.11.13 - 12.11	(中央図書館) ライティング支援連続セミナー「知識と言葉をめぐる冒険」
2013.11.27	(中央図書館) 附属図書館ボランティアによるおりがみ講習会
2013.12.2 - 2014.1.10	(中央図書館) 企画展「図書館総合展 2013 出展ポスター展」
2013.12.9 - 12.27	開館時間延長 (試行) に関するアンケート実施
2013.12.16 - 12.26	(中央図書館) 企画展「鹿島アントラーズクリスマス展」(主催：広報室)
2013.12.19	(中央図書館) ソクラテス・サンバ・カフェ (主催：人文社会科学研究科哲学・思想専攻)
2013.12.25	(中央図書館) プレゼンテーションセミナー (つくば院生ネットワークとの共催)
2014.1.9	(中央図書館) 「中公新書」「講談社現代新書」シリーズを創刊から購入、「新潮選書」「岩波ブックレット」「講談社文芸文庫」シリーズ購入開始
2014.1.14 - 3.31	電子ジャーナル等に関するアンケート実施
2014.1.22	(中央図書館) ソクラテス・サンバ・カフェ (主催：人文社会科学研究科哲学・思想専攻)
2014.2.8	(大塚図書館) 雪のため 17:00 で臨時閉館
2014.2.12	(中央図書館) 附属図書館ボランティアによるおりがみ講習会
2014.2.13 - 4.18	(中央図書館) 企画展「附属図書館オリジナルグッズデザイン募集応募作品展」
2014.2.14	雪のため 17:00 で臨時閉館
2014.3.3	附属図書館 Web サイトリニューアル
2014.3.3	(中央図書館) ソクラテス・サンバ・カフェ (主催：人文社会科学研究科哲学・思想専攻)
2014.3.10 - 4.25	(中央図書館) 企画展「震災の本棚」
2014.3.24 - 4.24	(中央図書館) 企画展「僕らの夏休みプロジェクト・Tsukuba For 3.11・みにぶろ三団体合同企画」 (主催：「僕らの夏休みプロジェクト」筑波支部、Tsukuba For 3.11、みにぶろ)
2014.3.25	Springer 社の電子ブックコレクションを拡充
2014.3.27	電子ジャーナルバックファイル (ScienceDirect の分野別コレクション 23 分野、Nature 関連誌 3 誌) を導入

2.見学・来訪者

日 付	内 容
2013.5.10	西江（ソガン）大学校一行 4 名
2013.6.3	マレーシア工科大学一行 7 名
2013.7.23	「JENESY2.0」中国大学生訪日団 30 名
2013.8.22	釜山大学校図書館長一行 4 名
2013.8.24 - 8.25	「平成 25 年度受験生のための筑波大学説明会」3,923 名
2013.9.11	トルクメニスタン国立アザディ世界言語大学学長一行 7 名
2013.10.10	モンゴル国立農業大学学長一行 3 名

3.オリエンテーション・講習会

内 容	実施回数	参加者数
新入生オリエンテーション（学群生）	5回	2,506名
新入生オリエンテーション（院生）	4回	92名
留学生オリエンテーション	12回	256名
新任教員オリエンテーション	2回	27名
図書館の本や雑誌の探し方講習会	3回	44名
論文の探し方講習会	38回	288名
自由テーマオリエンテーション	9回	30名
科目関連指導	62回	2,743名
（内訳）フレッシュマンセミナー（各学類等）	44回	1,933名
授業「基礎化学実験」春学期の 6 コマ分を担当	2回	114名
授業「知の探検法」秋学期の 12 コマ分を担当	12回	550名
授業「国語Ⅰ」春学期・秋学期の各 1 コマ分を担当	2回	14名
授業「国語Ⅲ」春学期の 2 コマ分を担当	2回	132名
その他	4回	180名

4.研修・シンポジウム

日 付	内 容
2013.7.1-7.12	平成 25 年度大学図書館職員長期研修（受講生 35 名）
2013.8.26-9.6	インターンシップ（筑波大学情報学群 知識情報・図書館学類 4 名）

5.会 議

日 付	内 容
2013.5.7・2014.3.24	附属図書館研究開発室運営会議
2013.5.24・7.23・9.25・2014.1.20・3.5	附属図書館運営委員会
2013.5.30・9.18	附属図書館収書専門委員会
2013.6.24・12.11	附属図書館ボランティア専門委員会

6.その他

日 付	内 容
2013.4.27 - 4.28	体育・芸術図書館 大型本書架入れ換え
2013.8.10 - 10.18	体育・芸術図書館 トイレ改修工事
2013.9.11 - 9.30	医学図書館 耐震改修工事に伴い閉館
2013.9.11 - (2014.7.31 予定)	医学図書館 耐震改修工事に伴う資料の取り寄せ（ILL）無償化措置
2013.10.1 - (2014.7.31 予定)	医学図書館 旧附属病院E棟6階仮設図書室にてサービス
2013.11.19	図書館搬送車 買い換えに伴い新車納車

メディアにみる附属図書館

1. 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

日付	掲載元	メディア	掲載内容
2013/4/10	年齢不問!サービス満点! 1000%大学活用術(中公新書ラクレ)	図書	貴重な所蔵資料
2013/7/15	AERA	雑誌	進化を続ける大学図書館
2013/10/16	カレントアウェアネス-R	Web	2013年のオープンアクセスウィークは10月21日~27日
2014/1/27	筑波大学新聞	新聞	反射鏡 今月のテーマ「図書館」
2014/3/3	カレントアウェアネス-R	Web	筑波大学附属図書館、ウェブサイトをリニューアルし、Tulips Search(ディスカバリサービス Summon)を新たに導入
2014/3/12	サンデー毎日	雑誌	「距離が縮まる、心が通う 図書館体操 被災地発”恋チュン”の次はコレ!」

2. 図書館の刊行物

筑波大学附属図書館年報2012年度

平成25年度筑波大学附属図書館特別展 知の開拓者(パイオニア)たち
— 筑波大学開学40+101周年記念特別展 — (図録)

Prism(Practical Information for your Serendipity and Mind)

No.47 2013.4.18	筑波大学附属図書館 平成25年度ライティング支援連続セミナー「知識と言葉をめぐる冒険」
No.48(J/E) 2013.4.22	中央図書館学生サポートデスク ラーニング・アドバイザー2013
No.49 2013.4.30	ラーニング・アドバイザーが語るCiNiiのすすめ
No.50(J/E) 2013.5.17	ラーニング・アドバイザーが語るProQuestの特色と活用方法
No.51 2013.6.20	文献情報を上手に管理したいのですが、いい方法ありませんか?
No.52 2013.7.10	ライティング支援連続セミナー体験記 知識と言葉をめぐる冒険「文書リテラシー」
No.53 2013.7.10	ライティング支援連続セミナー体験記 知識と言葉をめぐる冒険「大学で身につけたい言葉の力」
No.54 2013.7.23	ライティング支援連続セミナー体験記 知識と言葉をめぐる冒険「事実?意見?」(Lesson1)
No.55 2013.7.23	ライティング支援連続セミナー体験記 知識と言葉をめぐる冒険「事実?意見?」(Lesson2)
No.56 2013.8.5	ライティング支援連続セミナー体験記 知識と言葉をめぐる冒険「自分を守る『情報リテラシー』 情報の海でおぼれないために」
No.57 2013.9.30	つくばリポジトリQ&A — 学位規則改正を受けて —
No.58 2013.12.4	秋のライティング支援連続セミナー「知識と言葉をめぐる冒険」体験記「文書リテラシー」
No.59 2014.12.10	秋のライティング支援連続セミナー「知識と言葉をめぐる冒険」体験記「大学で身につけたい言葉の力」
No.60 2014.1.10	秋のライティング支援連続セミナー「知識と言葉をめぐる冒険」体験記「事実? 意見?」
No.61 2014.1.10	秋のライティング支援連続セミナー「知識と言葉をめぐる冒険」体験記「自分を守る『情報リテラシー』」

筑波大学附属図書館概要 2014(日本語版・英語版)

筑波大学附属図書館利用案内2014

2013年度発行
Prism Webサイト
アクセス数
No.1

The screenshot shows the Prism web interface with a search bar and various links. A red callout bubble highlights the 'No.1' ranking for the 2013 edition.

出版・放映・Web上に掲載された所蔵・公開資料

日付	内容	資料種別	資料名	請求記号	資料ID	掲載書名等
2013.5.7	出版	和装古書	日光山御祭禮繪圖	ハ240-102	10076864515	「北陸史学」61号
6.27	出版	和装古書	師善録	□860-155	10076705268	「大名鳥居忠英と学者伊藤仁斎」
7.2	放映	和装古書	漂荒紀事 巻1〜3	ネ060-27	10076731399	NHK「八重の桜」で放映 2013/8/25
7.16	出版	和装古書	蝦夷接境全圖	ネ040-96	10076904474	「廣澤安任旧蔵書籍記録二篇 人文篇」
7.19	出版	貴重書	グーテンベルク聖書42行聖書零葉	193.44-G97	40991009640	配布用クリアフォルダ
9.11	出版	貴重書	北野神社社域図	北野社	10003015568	「歴史における周縁と共生：女性・穢れ・衛生」
10.7	出版	貴重書	李白観瀑、剡溪訪戴図	721.4-Ka58	10003015101 10003015102	「探幽 3 兄弟展」
10.28	出版	和装古書	浪華往古圖	ネ040-597	10076904336	「久左衛門町・三津寺町スタイルブック」
11.13	出版	貴重書	恵比寿神瓢箪鯨	726.1-N47	10084019140	「文色と理方」
		貴重書	鯨騒動	726.1-N47	10084019136	
		貴重書	水神の告げ	726.1-N47	10084019143	
		貴重書	The Christian philosopher	191-D72	10001301166	
11.20	出版	雑誌	東京教育雑誌 149号	K-ト10160		新八王子子市史・資料編 6「近現代 2」
11.20	出版	和装古書	文部省発行錦絵 茶摘の図	376-Mo31-6	10097603014	「旧暦で読み解く江戸」
12.3	出版	和装古書	安政改正府御江戸繪圖	ネ400-210	10076904195	「間部詮勝ゆかりの地ガイドブック」
12.6	出版	和装古書	料理通	セ700-19	10076899064~65	「特別展江戸の食文化」
2014.2.4	出版	和装古書	學制	ホ610-宮45	10088013534	「子規・真之と小学校」
2.13	出版	和装古書	正三位物かたり(上・下)	ル120-125	10076922133, 10076922134	「石清水物語の研究」
2.27	出版	貴重書	北野神社関係文書 14: 永正5年9月9日 [丹波守護細川高国内奉行人奉書]	北野社	10003015111	「在京大名細川京兆家の政治的研究」

※全50件から抜粋したものです。

グーテンベルク聖書42行聖書零葉
(請求記号 193.44-G97)文部科学省発行錦絵 茶摘の図
(請求記号 376-Mo31-6)

附属図書館ボランティアの活動

1.2013 年度ボランティア構成

●男性：12 ●女性：41 計 53 名

〈年齢内訳〉

●30代：1 ●40代：4 ●50代：17

●60代：22 ●70代：8 ●80代：1

●新規活動者 5 名、●更新活動者 48 名

2.活動統計

1 総合案内

●ボランティアカウンター利用者数 1,152 人

(学内者：915 人 学外者：237 人)

●図書館見学案内 45 件 1,745 人

●対面朗読 103 時間

2 利用環境整備

●シェルフリーディング数 4,441 連

●不明図書の発見 4 冊

●ラベル補修 1,414 冊

(中央図書館：798 冊 図情図書館：616 冊)

●図書修理冊数 1,780 冊

(中央図書館：1,038 冊 図情図書館：742 冊)

3 体芸図書館ポスター整理 575 枚

3.年間行事

1 フォローアップ研修

●ミニレクチャー 12 月

●「大学図書館の動向と筑波大学附属図書館」

講師 加藤附属図書館副館長

●「機関リポジトリの役割」

講師 真中リポジトリ担当専門職員

●「視覚障害者サービス」研修会 6 月

柳澤由紀子氏(附属ボランティア)を講師として、視覚障害者の誘導のしかた、対面朗読の方法等について研修しました。



「視覚障害者サービス」研修会

●学内施設見学(プラズマ研究センター) 5 月

プラズマについての基礎知識と、センターでの研究内容の説明を受けたあと、世界最大のミラー型プラズマ実験装置を見学しました。

●学外施設見学(慶應義塾大学三田メディアセンター) 12 月

●製本講習会「無線綴じでメモ帳を作る」

外部から講師を招いた製本講習会が開催されました。製本技術は図書の修理にも応用できるため、図書修理ボランティアが大勢参加し、研修に熱が入りました。



製本講習会

2 ボランティア懇談会 10 月

3 ボランティア講演会 10 月

「感情による図書検索を目指す」講師 中山附属図書館長

4 意見交換会 8 月

利用環境整備・総合案内合同

4.各種活動

1 翻訳

英語に堪能なボランティアがアンケートや申込書などの翻訳を行いました。図書館のグローバル化の一端を担っています。

2 見学案内

今年度は新入生のオリエンテーションが増え、中央地区のほぼ全学類の新入生 817 人の見学案内を行いました。

また、秋学期には留学生が増加し、260 人に主に英語による案内を行いました。

【海外からの見学者案内】

海外からの訪問客が図書館を見学することが多くなっており、ボランティアが通訳として活躍する機会も増えました。

●西江(ソガン) 大学校一行 5 月

●マレーシア工科大学一行 6 月

●「JENESY2.0」中国大学生訪日団 7 月

3 折り紙講習会

7 月、11 月、2 月に折り紙講習会を開催しました。

2 月の「カクテルローズ」は盛況で、留学生を中心に 36 名の参加がありました。Facebook やホームページのお知らせで知った参加者が多く、図書館の PR が功を奏しています。

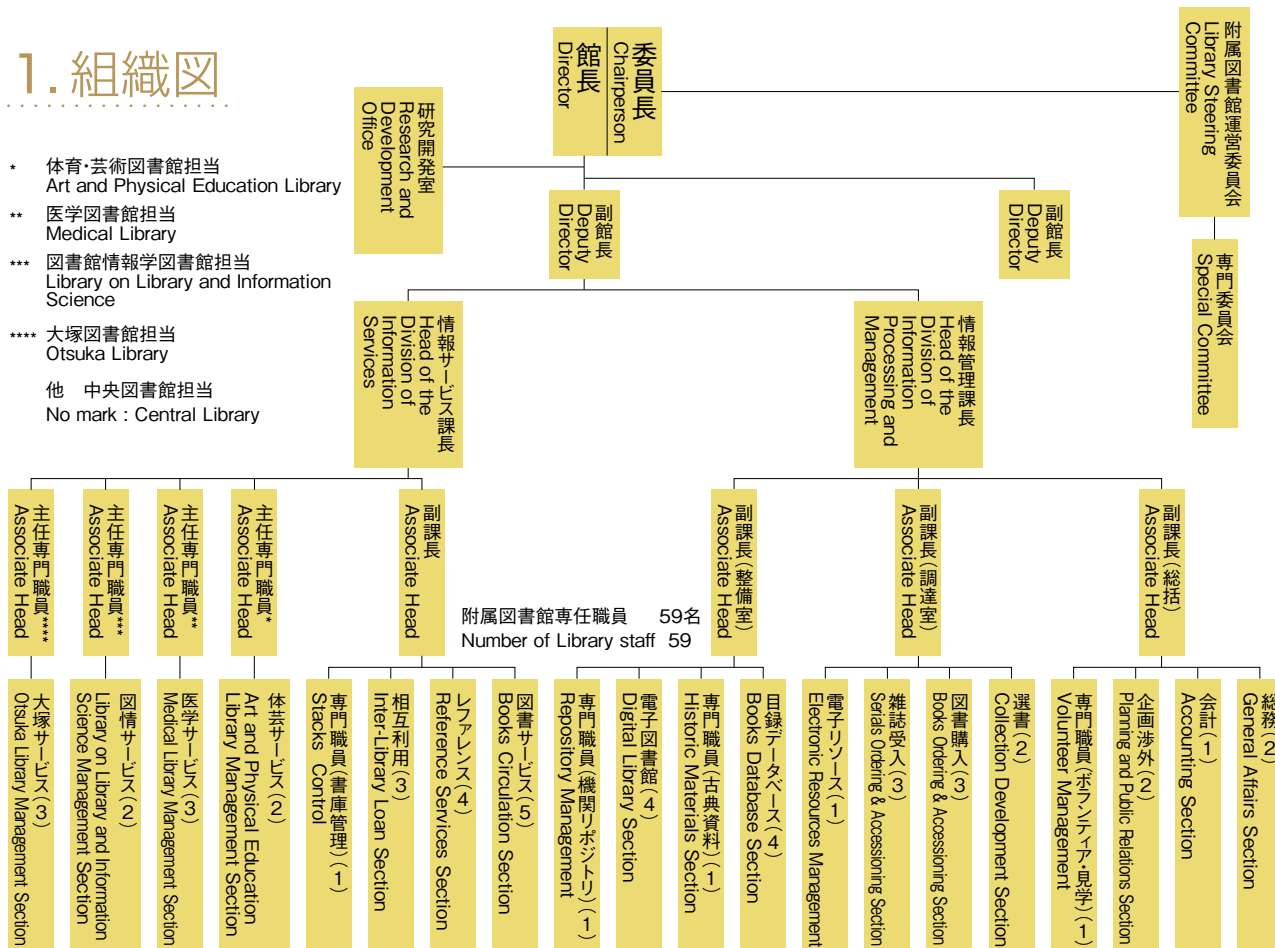


折り紙講習会

(見学・ボランティア担当専門職員 落合 厚子)

1. 組織図

- * 体育・芸術図書館担当
Art and Physical Education Library
- ** 医学図書館担当
Medical Library
- *** 図書館情報学図書館担当
Library on Library and Information Science
- **** 大塚図書館担当
Otsuka Library
- 他 中央図書館担当
No mark : Central Library



(2013年4月1日現在)

2. 歴代図書館長

	名 前	期 間	備 考
高等師範学校	三宅 米吉	明治32年6月30日 ~ 明治36年9月6日	図書係事務監督
東京高等師範学校	三宅 米吉	明治32年9月7日 ~ 明治44年4月29日	主幹
	松井 簡治	明治44年4月30日 ~ 昭和4年3月31日	主幹
東京文理科大学	松井 簡治	昭和4年4月1日 ~ 昭和7年3月31日	
	諸橋 徹次	昭和7年3月4日 ~ 昭和20年10月3日	
	能勢 朝次	昭和20年10月4日 ~ 昭和24年5月31日	
東京教育大学	能勢 朝次	昭和24年6月1日 ~ 昭和24年8月30日	
	下村寅太郎	昭和24年8月31日 ~ 昭和29年7月15日	
	中西 清	昭和29年7月16日 ~ 昭和31年3月31日	
	熊沢 龍	昭和31年4月1日 ~ 昭和33年3月31日	
	熊沢 龍	昭和33年4月1日 ~ 昭和33年4月30日	事務取扱
	熊沢 龍	昭和33年5月1日 ~ 昭和35年4月30日	
	肥後 和男	昭和35年5月1日 ~ 昭和38年3月31日	
	山崎 定	昭和38年4月1日 ~ 昭和40年3月31日	
	平塚 直秀	昭和40年4月1日 ~ 昭和42年3月31日	
	酒井 忠夫	昭和42年4月1日 ~ 昭和44年3月31日	
	宮嶋 龍興	昭和44年4月1日 ~ 昭和44年4月27日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和44年4月28日 ~ 昭和46年4月27日	
	橋本 重治	昭和46年4月28日 ~ 昭和47年3月31日	
	武藤 聡雄	昭和47年4月1日 ~ 昭和51年3月31日	
	西谷三四郎	昭和51年4月1日 ~ 昭和53年3月31日	

	名 前	期 間	備 考
筑波大学	三輪 知雄	昭和48年10月1日 ~ 昭和49年5月1日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和49年5月1日 ~ 昭和50年4月1日	
	大塚 茂	昭和50年4月2日 ~ 昭和52年4月1日	
	高橋 進	昭和52年4月2日 ~ 昭和54年4月1日	
	宮嶋 龍興	昭和54年4月2日 ~ 昭和54年6月9日	事務取扱
	岡本 敬二	昭和54年6月9日 ~ 昭和56年4月1日	
	高橋 進	昭和56年4月2日 ~ 昭和56年5月1日	事務取扱
	郡司 利男	昭和56年5月1日 ~ 昭和60年3月31日	
	松浦 悦之	昭和60年4月1日 ~ 昭和60年4月3日	事務取扱
	升田 公三	昭和60年4月3日 ~ 昭和62年6月8日	
	柳沼 重剛	昭和62年6月9日 ~ 平成元年6月8日	
	小川 圭治	平成元年6月9日 ~ 平成3年3月31日	
	新井 敏弘	平成3年4月1日 ~ 平成5年3月31日	
	北原 保雄	平成5年4月1日 ~ 平成9年3月31日	2期
	斎藤 武生	平成9年4月1日 ~ 平成11年3月31日	
	板橋 秀一	平成11年4月1日 ~ 平成13年3月31日	
	山内 芳文	平成13年4月1日 ~ 平成15年3月31日	
	林 史典	平成15年4月1日 ~ 平成16年3月31日	
	植松 貞夫	平成16年4月1日 ~ 平成22年3月31日	3期
	波多野澄雄	平成22年4月1日 ~ 平成24年3月31日	
	中山 伸一	平成24年4月1日 ~	

統計

2013(平成25)年度

利用統計

		中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
年間開館日数 (日)	平日	239	238	226	241	243	
	土・日・祝日	95	77	101	120	113	
	合計	334	315	327	361	356	
入館者数(人)	平日	501,659	94,128	63,581	59,143	49,216	767,727
	(学外者 内数)	(25,820)	(1,984)	(2,856)	(5,859)	(20,900)	(57,419)
	土・日・祝日	81,890	10,167	13,127	7,784	32,995	145,963
	(学外者 内数)	(8,321)	(474)	(1,733)	(1,381)	(12,551)	(24,460)
	合計	583,549	104,295	76,708	66,927	82,211	913,690
	(学外者 内数)	(34,141)	(2,458)	(4,589)	(7,240)	(33,451)	(81,879)
平均入館者数(人)	平日	2,099	395	281	245	203	
	(学外者 内数)	(108)	(8)	(13)	(24)	(86)	
	土・日・祝日	862	132	130	65	292	
	(学外者 内数)	(88)	(6)	(17)	(12)	(111)	
	合計	1,747	331	235	185	231	
	(学外者 内数)	(102)	(8)	(14)	(20)	(94)	
貸出冊数(冊)	学群生	97,805	15,823	10,563	11,665	485	136,341
	院生	90,831	15,084	4,005	7,330	9,716	126,966
	教員	27,130	3,989	2,215	2,283	2,206	37,823
	学外者	4,274	488	309	1,015	1,561	7,647
	その他	677	0	4	0	0	681
	合計	220,717	35,384	17,096	22,293	13,968	309,458
貸出利用者数(人)	学群生	42,755	6,787	5,189	5,517	241	60,489
	院生	30,685	5,266	1,415	2,777	4,434	44,577
	教員	6,250	788	611	757	534	8,940
	学外者	2,027	247	113	505	815	3,707
	その他	42	0	3	0	0	45
	合計	81,759	13,088	7,331	9,556	6,024	117,758
文献複写(コピー) (件)	学外依頼	5,182	1,032	3,201	288	2,002	11,705
	学外提供	2,209	215	554	91	139	3,208
	合計	7,391	1,247	3,755	379	2,141	14,913
相互貸借(図書) (件)	学外借受	1,254	61	24	74	203	1,616
	学外貸出	2,562	202	23	158	51	2,996
	合計	3,816	263	47	232	254	4,612
レファレンス件数(件)	学生	11,014	1,895	1,122	997	3,741	18,769
	教職員	3,954	544	2,823	412	490	8,223
	その他	1,762	85	25	319	184	2,375
	合計	16,730	2,524	3,970	1,728	4,415	29,367
	資料に関するもの	10,950	1,926	3,460	623	3,883	20,842
	利用案内・指導	5,692	598	509	1,085	530	8,414
	事実に関するもの	88	0	1	20	2	111
	合計	16,730	2,524	3,970	1,728	4,415	29,367

Webコンテンツアクセス数

トップページアクセス件数	件
学内	933,893
学外	663,632
合計	1,597,525

(※2014年2月末日現在)

つくばリポジトリアクセス件数	件
セッション数	282,821
ページビュー数	743,291

主要な電子ジャーナルアクセス件数(フルテキスト)	件
Elsevier(ScienceDirect)	515,346
Wiley-Blackwell(Online Library)	148,185
Springer(LINK)	111,086
Oxford University Press	33,052
Cambridge University Press	5,849
Nature Publishing Group	125,251

主要な文献情報データベースアクセス件数(サーチ数)	件
Web of Science	140,654
SciFinder	27,496
Journal Citation Reports	8,112
Business Source Complete	8,091
CiNii	659,476
医中誌Web	84,055

基盤統計

施設環境

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
建物面積 (m ²)	19,330	3,518	2,793	2,798	1,552	29,991
座席数(席)	1,053	394	349	261	129	2,186
利用者用PC台数(台)	160	69	75	37	25	366

(※2013年度末現在)

図 書

(冊)

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
図書の受入(和洋区分)						
和書	15,742	2,351	1,193	2,674	965	22,925
洋書	6,158	207	298	258	2,322	9,243
合計	21,900	2,558	1,491	2,932	3,287	32,168
(受入区分)						
購入	10,688	1,642	1,261	1,174	905	15,670
寄贈	8,171	614	122	1,519	2,204	12,630
製本	3,000	293	0	238	174	3,705
その他	41	9	108	1	4	163
合計	21,900	2,558	1,491	2,932	3,287	32,168
蔵書数(和洋区分)						
和書	1,075,980	188,666	87,341	174,932	44,062	1,570,981
洋書	787,233	66,333	80,115	72,989	18,882	1,025,552
合計	1,863,213	254,999	167,456	247,921	62,944	2,596,533

雑誌(冊子)受入タイトル数

内 訳	年度受入タイトル数		
	購入	寄贈	計
和雑誌	1,055	6,520	7,575
洋雑誌	1,059	1,035	2,094
合計	2,114	7,555	9,669

電子ジャーナル提供タイトル数 (※有料契約誌のみ)

内 訳	タイトル数
Elsevier(ScienceDirect)	2,267
Springer(LINK)	1,704
Wiley-Blackwell(Online Library)	1,389
Oxford University Press	256
Cambridge University Press	319
JSTOR	952
Nature Publishing Group	37
その他	18,478
合計	25,402

つくばリポジトリ 累積登録件数 (※2013年度末現在)

内 訳	件 数
学術雑誌掲載論文	5,089
学位論文全文	1,916
学位論文内容・審査の要旨	7,331
紀要論文	13,668
研究成果報告書	2,193
会議発表資料	165
講義資料	27
研究業績目録	23
つくば3Eフォーラム	87
A-LIEP	63
その他(図書)	168
合計	30,730

提供データベース・検索ツール

●契約データベース

データベース名
Web of Science
Journal Citation Reports
SciFinder
Business Source Complete
Lexis.com
Westlaw Japan
D1-Law.com
CINAHL
医中誌Web
PsycINFO
ProQuest Central
ProQuest Dissertations & Theses
CiNii
Conference Proceedings Citation Index

●学外への公開・発信

公開・提供内容
PPRBASE 捕食・寄生性昆虫データベース
沖縄歴史文庫データベース
応用動物昆虫文献データベース
日本美術シソーラスデータベース(試験運用版)
展覧会ポスターデータベース
SCPJ(学協会著作権ポリシーDB)
つくばリポジトリ
つくばサイエンスアクティビティ
茨城県遺跡資料リポジトリ

電子ブック契約タイトル 累積数 (※2013年度末現在)

内 訳	タイトル数
Springer	18,524
NetLibrary	851
Wiley-Blackwell	644
Cambridge University Press	1,658
その他	214
合計	21,891

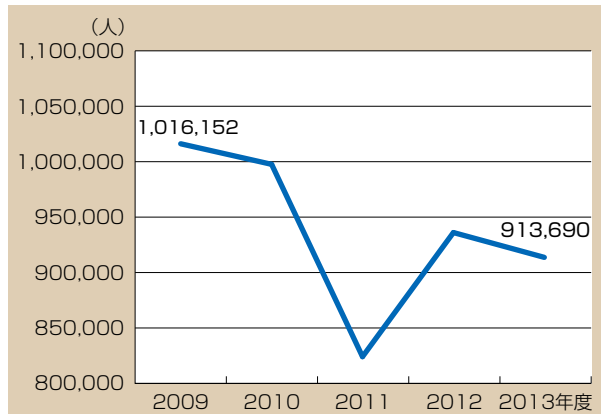
統計

2013(平成25)年度

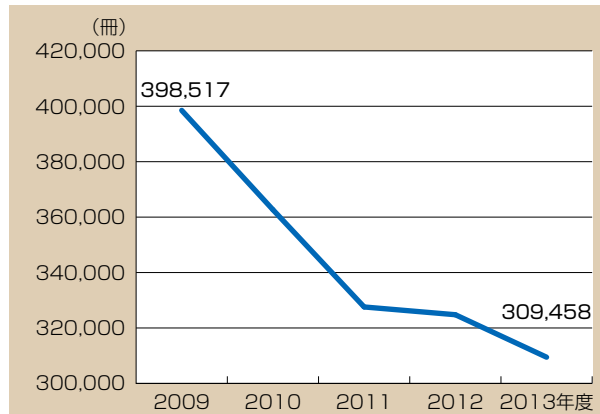
推移と分析

利用サービスの推移

●入館者数



●貸出冊数

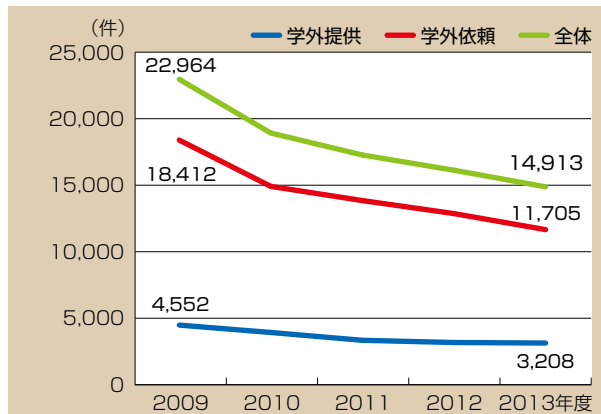


2011年度の震災による被害のため減少した入館者数は、2012年度に平常並みに回復しましたが、2013年度は22,389人(約2.4%)減少しました。これは、耐震改修工事のため医学図書館が閉館したことの影響と考えられます。医学図書館は2013年9月中旬に閉館し、以降、仮設図書室で限定的なサービスを行っていますが、入館者数は2012年度より82,205人(51.3%)減少しています。

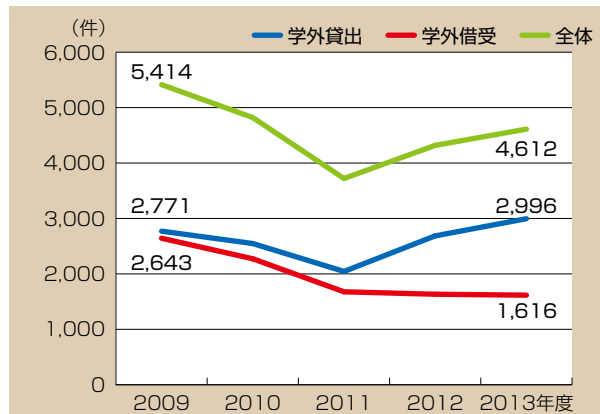
そのほかの館別入館者数は、中央図書館が約7.3%、体育・芸術図書館が約22.9%、図書館情報学図書館が約3.5%増加しています。大塚図書館は2011年9月のリニューアルから大きく入館者数が伸びていましたが、2013年度は2012年度に比べわずかながら減少に転じました。

貸出冊数は減少し続けており、2013年度の前年比減少率(約4.7%)は2012年度のそれ(0.85%)よりも高くなっています。

●文献複写(コピー)件数



●相互貸借(図書)件数

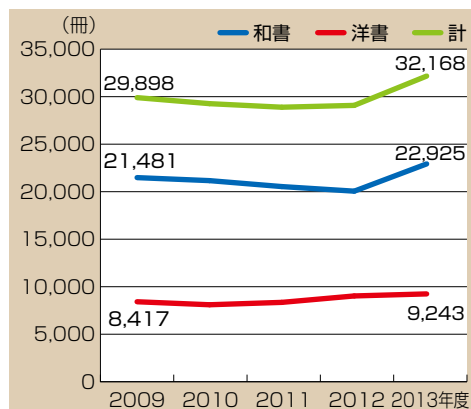


2010年度以降、電子ジャーナルの購読タイトル数の大幅な増加があり、文献複写(コピー)件数のうち、学外への複写依頼数は減少し続けています。

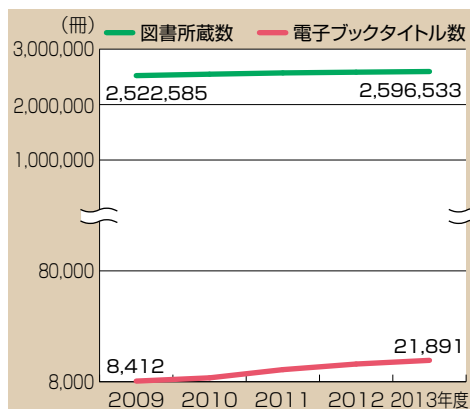
相互貸借(図書)も同じように学外への依頼件数が減少していますが、学外への貸出件数は増えています。

図書資料受入の推移

● 図書受入冊数 一和洋区分

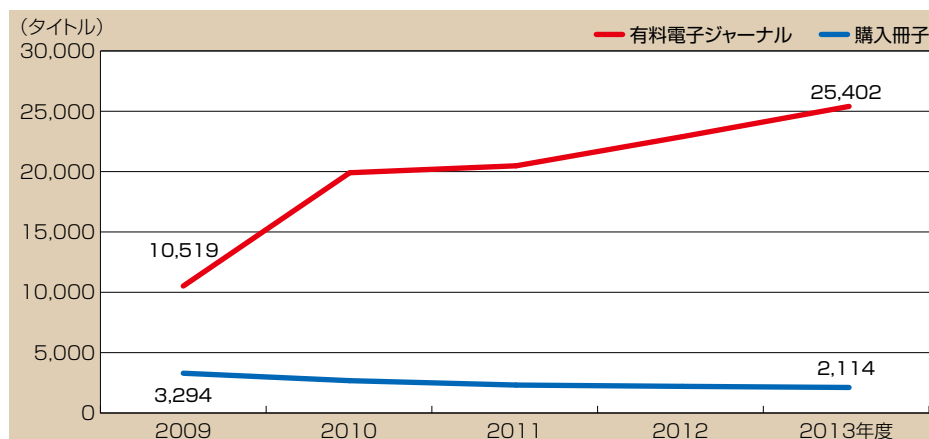


● 図書所蔵数・電子ブックタイトル数



2013年度は、文庫・新書の拡充などにより図書受入冊数が増加しました。また、2008年に導入を開始した電子ブックのタイトル数も継続的に増加しています。

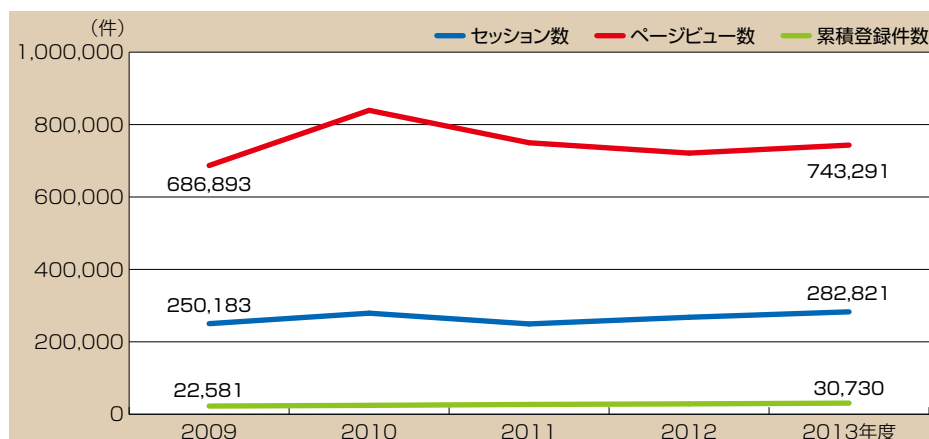
購入冊子と電子ジャーナルタイトル数の推移



2012年度に引き続き、2013年度も本学共通経費による安定的な電子ジャーナルの提供が実現し、電子ジャーナルのタイトル数は増加しています。

(※2009年度統計より統計数値を整理するのに伴い、遡及的に過去の購入冊子数を修正しました)

つくばリポジトリ 登録件数と利用の推移



2013年度は、コンテンツの登録数が3万件を超え、セッション数、ページビュー数ともに増加しました。



筑波大学附属図書館

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1
TEL 029-853-2347 FAX 029-853-6052
E-mail voice@tulips.tsukuba.ac.jp
URL <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY ANNUAL REPORT 2013

13